

大和市子ども読書活動推進会議 会議記録

会議名	令和2年度 第2回 大和市子ども読書活動推進会議
開催日時	令和3年3月 24日(水) 書面開催
開催場所	書面開催
参加委員	<p>&lt;推進会議委員&gt;</p> <p>伏見 暢子、今宮 智子、高橋 光江、矢野 諭、橋爪 ゆき、古川 恵子、本間 沙緒理、小林 美穂、阿部 きふゆ、椿 伊智郎、五十嵐 恵美、松村 佐和子、小林 寿子</p> <p>(順不同・敬称略)</p>
公開非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
審議又は検討経過及び結果	<p>Ⅰ 議事</p> <p>(1) 市民まつりの中止について</p> <p>第44回大和市民まつりの開催中止を報告。</p> <p>委:読書を推進する機会が減り残念。</p> <p>委:次回以降開催できるようになった際には、森のこかげのお話し会を実施したい。</p> <p>委:感染防止の観点においても、やむを得ない判断と考える。</p> <p>委:中止は残念だが、コロナ禍での大きなイベントの実行は断念せざるを得ない。次回以降の開催を期待する。</p> <p>委:現況ではいたしかたないことと理解した。</p> <p>委:現在の状況から鑑みて、祭りの中止は妥当と考える。</p> <p>委:中止はやむを得ない。具体的な良案があるわけではないが、外に出る機会が少なくなってきているコロナの影響下では、ホームページの活用が有効と考える。</p> <p>委:来年度は開催できることを願う。</p> <p>(2) 子どもの読書についての調査の結果について</p> <p>子どもの読書についての調査の結果(速報値)を報告。</p> <p>委:小中学生 問9の結果から、学校図書館を定期的にご利用してもらうに組みを考える必要がある。</p> <p>委:コロナ禍で在宅時間が増えても、ゲームやスマホ等の時間に読書時間が押されてしまっているようで残念。</p> <p>委:本の選択や本に興味を持つきっかけはテレビ動画で話題となっているものや身近な人から情報を得ている割合が高いことがアンケートから読み取れることから、読書推進の一つとして様々な情報ツールを使った本の情報発信は、このコロナ禍でも効果的な取り組みになるのではないかと考える。</p>

委:本を読む子は読む、読まない子は読まないということが読み取れた。コロナ禍に於いて時間はあっても「変わらない」現状がある。何かに興味を持ち選択的要素になれば良い。「本を読みなさいと言われても大人が読んでいなければ…」といった意見が新聞にあった。改めて大人が背を見せる大切さを感じた。

委:約7~8割が「読書が好き」と答え、読書の重要性・必要性を理解し、努力したら家での読書時間を1時間以上とれると答えた人も50%以上いる中で、図書室・図書館の利用が少ないことが伺える。身近な人の紹介が手にとるきっかけになっていることも多く、放課後児童クラブ等の身近な場で、お話し会等の機会を増やすことも一案と考えます。

委:質問内容が的確に整えられていたので、今後の子ども読書活動に向けて、大きな力になる。

委:アンケートの実施数・回答率など適当と思われる。おうち時間が増えた事で家読をすすめる機会が増えている。しかし、その好機がマンガや動画に使われているのは残念。

家読がまだ浸透していない様子が読み取れる。「言葉は親しまれていないが、読書活動ができています」というわけでもなさそうだ。

委:貴重な資料だと考える。特に高校生が一ヶ月に読む冊数が0冊の割合が49.3%という数字にショックを受けたが、「読書は大切なことだと思いますか」の問いに「思う」「少し思う」を合わせた割合は、92.3%だったのが救い。アンケートから、子どもたちが置かれている実態を細かく分析し、手立てを考えていくことが必要だと感じる。また、このようなアンケートをとること自体が読書に対しての意識づけにもなるだろう。

### (3) 図書カードの配付について

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を利用した図書カード配付事業の結果を報告。

委:よい事業だと思う。

委:スマートフォン等の使用件数は増えていても、読書に電子機器を利用する割合は低いことから、実際に紙の本に触れるきっかけ作りに繋がる図書カードの配付は読書推進の活動として効果が得られたのではないかと思う。

委:図書券の配付については共感しました。使い方の回答「それ以外・無回答」の割合が高い。配付の仕方について、義務教育の子どもには学校をとおして手渡し、教室で本を話題に心豊かな時間を過ごせたら良かったのではとも思った。

委:図書カード配付により、読書のきっかけや意欲につながり活動推進の効果が認められたと考える。

委:行政の"子どもと本"への思いが広く伝わるとよい。

委:図書カード配付の取り組みは後から知ったが、良い取り組みになったのではな

いかと思う。図書カードは書店で使うものなので、子どもたちにとっては書店に行く機会、本と出会う機会の創出になったのではないか。ただ最近は書店が減ってきているように感じる。図書カードを使える書店がどれくらい残っているのだろうかとも思う。

委:35%程の小中学生がマンガの購入に使用していたのは残念。

委:良い取り組みだと思う。特に中高生の読書推進に役立ってくれればと願う。

## 2 事務連絡

子ども読書活動推進会議委員の任期満了に伴う改選について連絡。

## 3 その他意見

委:2020年度の小学校の読み聞かせボランティアの活動ではDVDに録画したものを使う等で、対面の活動ができていない。感染防止をしながら、読み聞かせ活動を再開するための指標や方法を話し合う等意見交換できれば良いと思う。

委:コロナ禍での読書推進の活動は難しい部分も多くあったかと思うが、子どもたちの読書への関心を高めるために工夫をこらした取り組みが行われていたと思う。

委:学校図書館の役割と位置付けについて、学校と図書館の連携関係が保たれているか。19校に司書教諭が在籍し、在り方と子どもの利用頻度について考えることがある。必ず子どもがいる学校図書館に於いて読書教育を充実させ、図書館へ繋がる道になることを願う。

委:子どもと本をつなぐには、学校図書館の力がとても大きいと感じる。学校図書館・行政・市立図書館がうまく融合し、活動がすすむとよいと思う。

以上

注(委:委員)